

## キー操作で楽しむEメール

盲学校高等部、自立活動。

### コンピュータ活用のアイディアとメリット

- ・インターネットの利用で自らの力だけでメール（手紙）のやりとりが出来る。
- ・キーのみでコンピューターを操作して、今日のG U I インターフェースを克服し、生活補助具としてのコンピューター操作を身近なものとする。

### 対応する学習指導要領の内容

自立活動 コミュニケーション手段の選択と活用に関すること。  
状況に応じたコミュニケーションに関すること。

### 指導目標

Eメールを活用して点字、墨字（普通の文字）の境を超えた交流が出来るような力を身につけ、さらに生活補助具としてのコンピューターの活用スキルを向上させる。

### コンピューター活用のねらい

コンピューターは、盲学校にとって驚異の補助具である。それまで手書きだった点字は、キーボードをたたくことで簡単に打つことが出来るようになったし、点字を紙に印刷して製本すると数冊になる本でも点字ファイルとしてフロッピーに落とせば、一枚でおさまるようになった。さらに、普通の文字はテキストスタイルであれば簡単に点字に変換できるし、点字は、簡単に普通の文字に変換出来るようになった。さらにキーボードによる点字入力ソフトと音声ソフトを組み合わせることによって直接、墨字テキストを作成する事まで出来るようになった。

そのため、盲学校にコンピューターが導入されたのは、比較的早かった。しかも急速に広まった。

ところが、D O S環境が切り捨てられ、G U I環境中心のウィンドウズが主流になったことが視覚障害者にとってはとんでもない困難を招くこととなった。

視覚を前提とした環境は、D O Sのように音声を頼りにキーで操作するのが難しい。複数のソフトを切り替えて使うのもそう簡単ではない。

しかし、そのかつての環境が切り捨てられたからといって、視覚障害者にとってコンピューターが便利であることにはかわりはない。生活の大事な補助具としてのコンピューターを使いこなすためにはG U I環境を乗り越えるしかない。

G U I環境を克服するためには、新たにソフトを導入して、画面の音声化と入力の点字方式化（キーボード6キーのみで入力する）を計らなくてはならない。

しかし、いくら音声化しようと点字入力化しようと、かつてのように単一ソフトの時代と違って、そのコンピューター操作に必要なスキルのレベルは、比べものにならないほど高い。

ここでは、Eメールというインターネットの重要なアイテムを使いこなすことをとおして文字を自由に使う能力を身につけるとともにG U I環境の克服もねらってみた。

### 実践のポイント

#### 準備

#### 1. 使用環境のカスタマーズ

音声ソフトプロトカー（IBM）と6点入力ソフト（Kトス 高知システム フルキーモードで立ち上げ。点字モードだと他のキーはほとんど使えなくなる）はスタートアップで起動する環境にしておく。メーラー（MMメール 音声対応 宮崎嘉明氏作のフリーソフト 次期バージョンから有料）スタートメニューに登録しておく。

（なおWindows 95は、インターネット接続の自動化が難しいのでDUNCEというアメリカのフリーソフトで自動化してある）

## 2. キーの位置の確認。

ウインドウズキー（スタートメニューの立ち上げ）矢印キー（ソフトのメニュー画面の移動）エンターキー（確定）タブ（作業画面内の移動）六点の確認（f = 1、d = 2、s = 3、J = 4、k = 5、l = 6）・・・毎回、さわりながら確認する。

3. キー制御ソフト（Kトス）のオンとオフの確認（シフト+Xファー・・・変換キー・・・オン、オフ）・・・六点モードだと他のキーの操作がこんなになるので入力場面だけオンにして、それ以外に速やかにオフにする）

## 導入

1. メールの便利さ、おもしろさを具体的に話す。メーリングリストのこと。メールニュースの配信サービス。学校や会社のメールの活用法・・・

2. メールのルールと活用法なども話題にする。

3. 必ずコンピューターの立ち上げから入る。電源を切るところで終わらせる。（音声を聞きながらソフトが常駐していることを確認させるため）

## 指導場面での留意点

1. 音声が何と読み、その言葉がどういう意味か、教える。（CC、BCC、アドレスサブジェクト、受信、送信・・・）

2. タブでアクティブ画面を移動する場面（ソフト内の作業領域の移動）と矢印キーでの移動場面（ぶら下がりメニューの移動）の違いを確認する。（音声での確認を徹底する）

3. メールの言葉遣いやウイルスについて注意を促す。（ネットでのマナーや危険性についてもその都度、話題にする）

## 生徒の反応

コンピューター利用をWWWから入ったためか、次にEメールをやると言ったら、興味を示した。実際の操作も比較的早くマスターした。

実際にEメールを送受信したときは、その早さにはちょっと驚いていた。

但し、DOS時代の6点入力方式の使い方にはたけているが、フルキーにはなれていないのでコマンドを指示するキーにずれが生ずることがあった。どうやらフルキーもある程度、習っていないとうまく行かないようだ。（視覚障害者にもフルキーを覚えることは絶対必要だと言う意見もある）さらなる向上を目指すためには、ある程度フルキーをマスターした方がよいと生徒も思うようになっ



たようだ。

メールの練習と言うことで自分に自分から出す練習(学校のアドレスを使用)を主にしているが、  
今後はメールを誰かに出して反応を確認するような作業が必要になってきている。そのためには個人アドレスがあった方が良いのだが、その環境が学校にないのが残念である。